

第29回 全国トンボ市民サミット 茨城県涸沼大会



大会テーマ：
「ヒメイトトンボ発見地からの提言」

ラムサール条約に登録された
関東唯一の汽水湖 涸沼で
ヒメイトトンボと自然を見つめる
2日間



2018年
6月9日(土)~10日(日)

9日(土) ■ エクスカーション(体験型見学会) ■ 交流会
10日(日) ■ 本大会(基調講演・パネルディスカッション)

★エクスカーション・交流会は事前予約制です。★小雨決行 荒天中止

世界中幅広い地域の水辺に生息するトンボは、「環境の指標」と言われています。
トンボ市民サミットは、トンボの観察・保護を通して自然環境の大切さを考えていく大会です。
美しい水辺の散策を楽しみながら、自然に親しんでみませんか？



ヒメイトトンボ
集団睡眠の様子

夜間は草に止まって集団睡眠をします。赤い個体はメスです。交尾は暑くて晴れた日に行われます。オスとメスは、ハート形の姿勢を取り、新しい命を育みます。

撮影 廣瀬誠

関東唯一の汽水湖 涸沼

涸沼は、茨城町・大洗町・鉾田市にまたがる天然の汽水湖(淡水と海水が混じる湖沼)です。満潮時には、太平洋から那珂川を介して涸沼川へと海水が逆流し淡水と海水が混じり合います。ヤマトシジミ・ハゼなどの水産物が豊富です。

周囲には、多様な生物を育む水田や湿地帯があり、湿生植物が繁茂し昆虫・鳥類などが生息しています。冬には、スズガモなどの水鳥が飛来し、東アジアにおける重要な越冬地・中継地(渡り途中の立寄場所)となっています。

2015年には「ラムサール条約」に登録されました。これは、1971年にイランのラムサールで締結された、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」です。

1971年に涸沼で発見された新種「ヒメイトトンボ」の生息地としても知られます。



涸沼川の源流である笠間市の国見山からの涸沼・大洗方面の眺め。



6月 霧沢から眺めた涸沼と筑波山。9代水戸藩主 徳川斉昭は、領内の景勝地「水戸八景」のひとつに、「広浦秋月」を挙げその風景を絶賛しています。殿様も涸沼の自然の美しさに心を奪われたのでしよう。



スズガモ



オオワシ

ヒメイトトンボのこと

ヒメイトトンボは、体長3cm程の小さなトンボ。

日本では東北~九州に分布。

1971年に廣瀬誠氏と小菅次男氏が、涸沼で発見しました。

全国的に生息地が減少し、絶滅危惧種に指定されています。

茨城町指定天然記念物。



ヒメイトトンボオス



ヒメイトトンボメス

主催：第29回 全国トンボ市民サミット 茨城県涸沼大会実行委員会
後援：茨城県 鉾田市 茨城町 大洗町 茨城県教育委員会 鉾田市教育委員会 茨城町教育委員会 大洗町教育委員会 茨城県観光物産協会 茨城新聞社 写真提供：廣瀬誠 清水道雄 田中宏

大会スケジュール 詳しくは裏面をご覧ください。

6/9(土) ★事前予約制

- エクスカーション(体験型見学会)【定員】150名
【時間】14:00~16:00 受付12:30~ 出発13:30
【参加費】2,000円【集合場所】いこいの村涸沼 入口
【会場】涸沼自然公園
- 交流会【定員】100名
【時間】18:30~20:30 受付18:00~【参加費】5,000円
【会場】いこいの村涸沼 1F多目的ホール

6/10(日) ★予約不要・先着順

- 本大会(参加無料)
【定員】150名【会場】いこいの村涸沼 1F多目的ホール
基調講演①【時間】10:30~ 基調講演②【時間】11:30~
日本トンボ学会会員 茨城県環境アドバイザー 日本鳥類保護連盟 茨城県支部長
廣瀬誠氏 山口 萬壽美氏
事例発表【時間】13:00~
千葉県立国府台高等学校 理科研究部
茨城県立茨城東高等学校「We are 涸沼っ子!」
パネルディスカッション【時間】13:30~
「水辺と里山の保全活動から生物多様性と地域の未来を考える」
【コーディネーター】 第12回全国トンボ市民サミット 千葉縣市川大会実行委員長 佐野 郷美氏
【パネリスト】
NPO環~WA 代表理事 青葉庭園 代表 茨城県環境アドバイザー 日本野鳥の会茨城県 副会長
大和 文子氏 田中 宏氏 石井 省三氏

お問合せ・お申込み

第29回 全国トンボ市民サミット
茨城県涸沼大会実行委員会 事務局

http://tombowsummitibaraki.web.fc2.com/
E-mail tombow.summit@gmail.com

TEL: 090-6943-2895 担当: 本宮 茂
FAX: 0291-33-2388

